

野菜の需給・価格動向レポート(平成30年9月3日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

※・レポートの読み方については、注意書きを参照してください

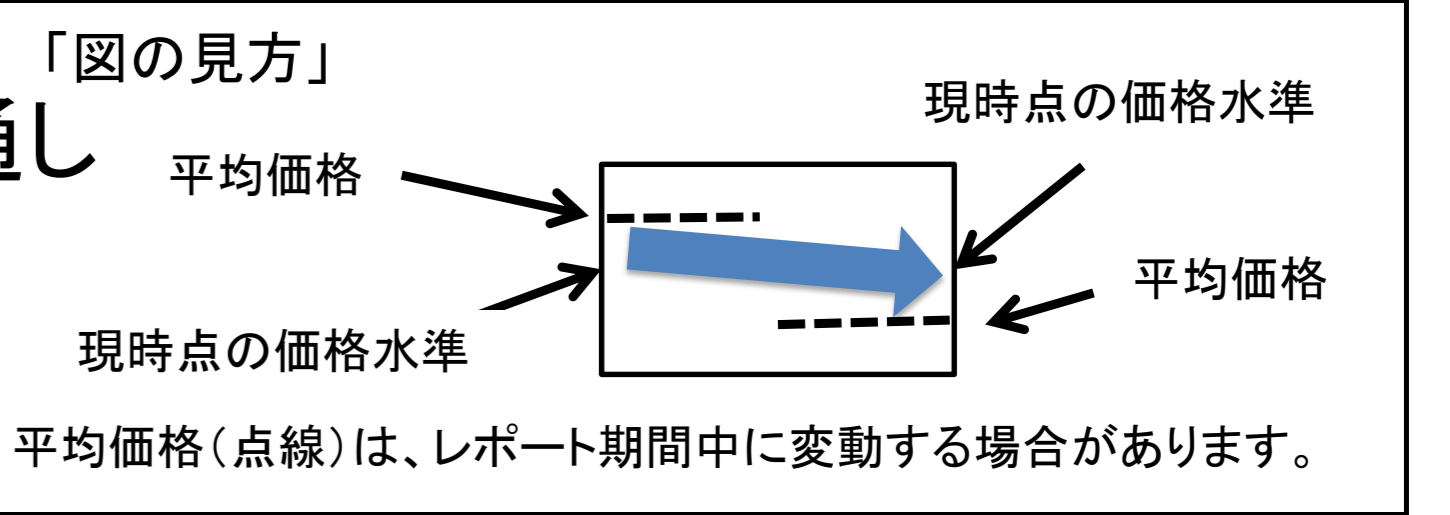
種類	7月の価格情報		8月の価格情報			8月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	9月の主産地	生育及び価格の9月中旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 現時点の価格水準 現時点の価格水準 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格 下旬	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格 上旬	中旬				
キャベツ	77.90	115 (148%)	77.90	105 (135%)	93 (119%)	・10,028t (95%)	群馬(73)		群馬産は、7月中旬以降の高温・少雨の影響により生育が遅延して小玉傾向となっていたが、その後の適度な降雨により生育が回復し順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 高温・少雨の影響により高値になり、8月に入って徐々に値を下げて現在平均並みの価格は、群馬産の出荷が平年並みと見込まれることから、引き続き平均並みで推移する見込み。
	88.91	119 (134%)	88.91	104 (117%)	97 (109%)	・3,600t (90%)	群馬(67)、長野(29)		
たまねぎ	102.67	87 (85%)	102.67	102 (99%)	102 (99%)	・4,066t (99%)	北海道(93)		北海道産は、6月下旬以降の長雨・日照不足により生育が遅延して一部が小玉傾向となっている中、その後の高温・少雨により早期倒伏が散見されることから、現在平年並みの出荷は、今後は平年を下回る出荷の見込み。 府県産の流通在庫が徐々に減少する中で、8月に入り徐々に値が上がり現在平均並みの価格は、北海道産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、今後は平均を上回って推移する見込み。
	102.67	89 (87%)	102.67	104 (101%)	105 (102%)	・1,654t (84%)	北海道(63)、兵庫(33)		
ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	287.00	324 (113%)	287.00	336 (117%)	437 (152%)	・1,141t (96%)	青森(26)、秋田(18)		青森産及び秋田産は、7月中旬以降の高温・少雨により生育が遅延しているものの、その後に適度な降雨があったことから、現在平年を下回る出荷は、今後は平年並みの出荷の見込み。 高温・少雨の影響により高値になり現在平均を上回る価格は、青森産及び秋田産の出荷が平年並みと見込まれることから、今後は平均並みで推移する見込み。
	462.77	510 (110%)	462.77	592 (128%)	667 (144%)	・105t (69%)	香川(36)、徳島(19)		
はくさい	58.82	94 (160%)	86.06	144 (167%)	103 (120%)	・3,089t (101%)	長野(82)		長野産は、高温の影響により生育が遅延しているものの、その後の気温の低下や適度な降雨により生育が回復していることから、現在平年を下回る出荷は、今後は平年並みの出荷の見込み。 高温・少雨の影響により7月下旬から値を上げて現在平均を上回っている価格は、長野産の出荷が平年並みと見込まれることから、今後は平均並みで推移する見込み。
	62.79	99 (158%)	88.72	148 (167%)	107 (121%)	・1,716t (87%)	長野(100)		
ほうれんそう	583.95	768 (132%)	583.95	757 (130%)	762 (130%)	・311t (93%)	群馬(33)、栃木(21)		群馬産及び栃木産は、高温・少雨の影響により生育が遅延していることに加え、病害や発芽不良も散見されることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 高温の影響により7月中旬から値を上げて現在平均を上回っている価格は、群馬産及び栃木産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	670.86	782 (117%)	670.86	822 (123%)	835 (124%)	・131t (83%)	岐阜(71)		
レタス (結球)	120.13	156 (130%)	158.27	129 (82%)	107 (68%)	・5,340t (95%)	長野(79)		長野産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 高温・少雨の影響により高値になり、8月に入って徐々に値を下げて現在平均を下回る価格は、長野産の出荷が平年並みと見込まれることから、引き続き平均を下回って推移する見込み。
	125.61	171 (136%)	152.57	128 (84%)	101 (66%)	・1,966t (104%)	長野(92)		
きゅうり	232.28	302 (130%)	232.28	284 (122%)	371 (160%)	・3,946t (89%)	福島(27)、群馬(14)		福島産は、7月中旬以降の高温・少雨により樹勢が低下している中で、花落ちや病害がでていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。群馬産は、7月中旬以降の高温・少雨の影響により生育が遅延しているものの、その後の適度な降雨もあって生育は回復していることから、現在平年を下回る出荷は、今後は平年並みの出荷の見込み。 福島産の出荷が平年を下回ると見込まれるものの、群馬産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を大幅に上回っている価格は、平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	244.44	321 (131%)	244.44	296 (121%)	368 (151%)	・1,299t (96%)	福島(25)、北海道(24)		
トマト (大玉)	265.08	306 (115%)	265.08	314 (118%)	380 (143%)	・3,685t (66%)	北海道(17)、青森(16)		北海道産及び青森産は、6月以降の低温・日照不足で樹勢が低下している中で、最近の夜温低下で着色が遅れていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 北海道産及び青森産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	298.46	322 (108%)	298.46	326 (109%)	370 (124%)	・1,824t (79%)	岐阜(38)、北海道(33)		
なす	242.04	311 (128%)	242.04	313 (129%)	255 (105%)	・2,719t (99%)	群馬(37)、栃木(31)		群馬産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、天候に恵まれて肥大が促進した影響で成り疲れになっていることから、現在の出荷は平年並みになっているものの、今後は平年を下回る出荷の見込み。 群馬産の出荷が平年並みと見込まれるものの、栃木産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	232.81	349 (150%)	232.81	353 (152%)	257 (110%)	・1,049t (91%)	山梨(29)、徳島(18)		
ピーマン	290.48	459 (158%)	276.76	509 (184%)	515 (186%)	・907t (100%)	茨城(41)、岩手(35)		茨城産及び岩手産は、7月中旬以降の高温・少雨の影響により病害がでていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 茨城産及び岩手産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	307.99	454 (147%)	296.27	478 (161%)	493 (166%)	・277t (71%)	青森(31)、大分(19)		
だいこん	94.60	126 (133%)	94.60	118 (125%)	112 (118%)	・3,219t (105%)	北海道(64)、青森(33)		北海道産及び青森産は、6月下旬以降の長雨・日照不足で生育が遅延していたが、その後の天候の安定により生育が回復して現在の出荷は平年並みとなっているものの、今後は6月下旬以降の長雨で播種が遅延した影響がでることから、平年を下回る出荷の見込み。 6月下旬以降の長雨・日照不足の影響により高値になり、8月に入って徐々に値を下げて現在平均並みの価格は、北海道産及び青森産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、今後は平均を上回って推移する見込み。
	90.60	119 (131%)	90.60	114 (126%)	107 (118%)	・1,394t (99%)	北海道(68)、岩手(12)		
にんじん	133.01	154 (116%)	123.08	126 (102%)	127 (103%)	・2,611t (87%)	北海道(98)		北海道産は、6月下旬以降の長雨・日照不足の影響により生育が遅延しているものの、作付面積を増加した産地からの出荷が始まっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
	132.62	154 (116%)	123.11	123 (100%)	126 (102%)	・1,006t (85%)	北海道(99)		

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成23~28年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格であり、農林水産省で公表している「野菜の生育状況及び価格見通し」における平年価格(平成25~29年)とは異なる。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載しているのので下記URLを参照。
URL: https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html

1 主要野菜の生産出荷状況

※・レポートの読み方については、注意書きを参照してください

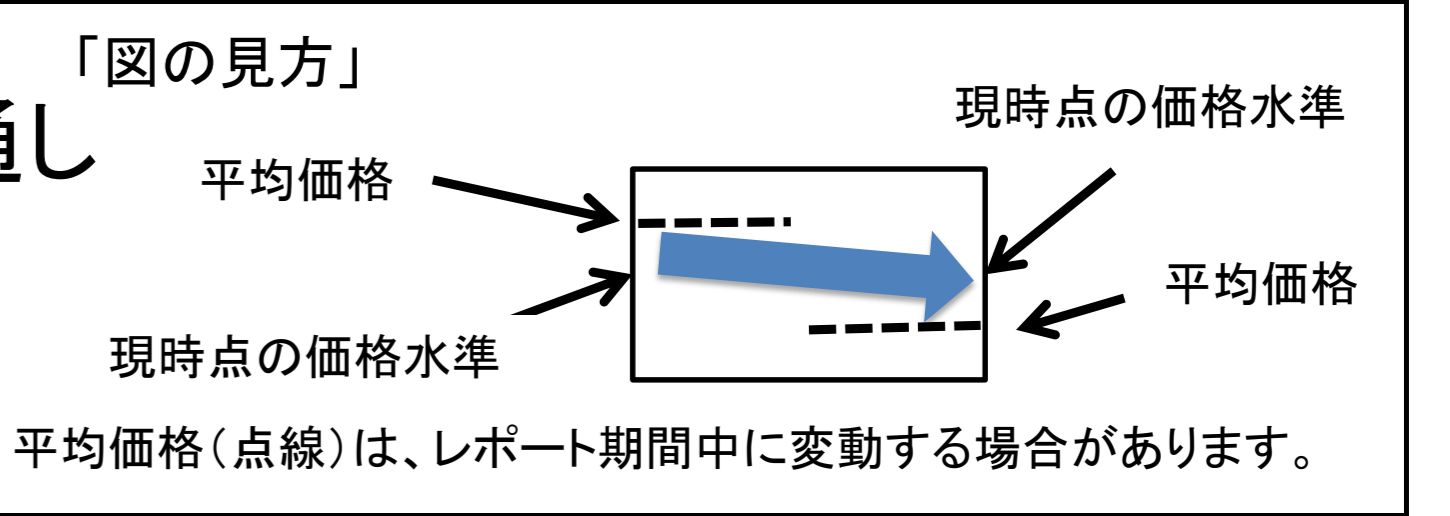
種類	7月の価格情報		8月の価格情報		8月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	9月の主産地	生育及び価格の9月中旬までの見通し		
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売額	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売額					
いも類	さといも	361.20	369	280.27	487	436	・73t (96%)	千葉(71)	千葉産は、7月中旬以降の高温・少雨の影響により生育が遅れていたものの、その後の適度な降雨により生育が回復していることから、現在平均を上回っている価格は、平均並みで見込み。
		(102%)	(174%)	(156%)	愛媛(62)、宮崎(11)	千葉産の出荷が平均並みで見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、平均並みで推移する見込み。			
	347.90	312	242.12	401			266	・28t (230%)	北海道(92)
	(90%)	(166%)	(110%)	北海道(98)	府県産の流通在庫が徐々に減少する中で、8月に入り徐々に値が上がり現在平均並みになっている価格は、北海道産の出荷が平均を下回ると見込まれることから、今後は平均を上回って推移する見込み。				
ばれいしょ	117.36	78	117.36			90	107	・1,780t (71%)	北海道(98)
	(66%)	(77%)	(91%)	(84%)	(106%)				



注：1 平均価格は、過去6カ年(平成23～28年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格であり、農林水産省で公表している「野菜の生育状況及び価格見通し」における平均価格(平成25～29年)とは異なる。
2 旬別平均販売額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売額は、機構HPに掲載しているの下記URLを参照。
URL : https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	7月の価格情報		8月の価格情報		8月中旬の東京及び大阪市場の入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	9月の主産地	生育及び価格の9月中旬までの見通し		
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格					
洋菜類	ブロッコリー	384.87	390	384.87	545	577	・243t (79%)	北海道(65)、長野(21)	北海道産は、6月下旬以降の長雨・日照不足により生育や定植が遅延している中で、7月中旬以降の高温で病害がでていることから、引き続き平均を下回る出荷の見込み。長野産は、7月中旬以降の高温・少雨の影響により生育不良となっていることから、引き続き平均を下回る出荷の見込み。
		(101%)	(142%)	(150%)	北海道(66)、長野(20)	北海道産及び長野産の出荷が平均を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。			
412.22	452	412.22	514	558			・103t (93%)	北海道(66)、長野(20)	北海道産及び長野産の出荷が平均を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
(110%)	(125%)	(135%)							



注：1 平均価格は、過去5カ年(平成25～29年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売額は、機構HPに掲載しているの下記URLを参照。
URL : https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html

○輸入について

貿易統計によると、平成30年7月の生鮮野菜の輸入量は、6万4千トン(前年同月比106%)となり、前年と同程度であった。また、加工野菜は、16万7千トン(同100%)であり、野菜全体では、23万2千トン(同101%)となった。このうち、中国産の輸入数量は合計で11万9千トン(同108%)と輸入量の51%を占めた。

7月の輸入量は、6月下旬から7月初旬の台風7号による「平成30年7月豪雨」の被害を受ける前の国産野菜の順調な出荷による価格安の影響により、全体では落ち着いた動きを見せ前年並みで推移した。

当月における品目別の動向をみると、生鮮野菜で輸入量が第1位のたまねぎは、2万1千トン(同88%)、第2位のにんじんは9千トン(同131%)、第3位のばれいしょで6千トン(同104%)となった。たまねぎは、国内産の生産が順調で安価であったため輸入が減少、一方、にんじんは、国内の作柄が不良との予測に業務筋が海外からの調達を増加したと思われる。同様の理由により数量は少ないが、キャベツについても2千トン(同231%)と大幅に増加している。

現在、輸入量は前年並みで推移しているものの、7月の台風以降の高温・干ばつ・局地的豪雨といった天候不順による作柄不良が各地から報告されており、市場価格上昇に伴う輸入の増加が懸念される。

○輸出について

7月の輸出量は、生鮮野菜は1,060トン(同106%)、加工野菜は1,137トン(同113%)となり野菜全体では2,197トン(同110%)と増加した。

生鮮野菜の主要輸出品目であるながいもは、引き続き好調であり、7月の輸出量は531トン(同142%)となった。また、その他の品目で増加したのは、メロンが79トン(同135%)、かぼちゃ54トン(同157%)となった。国内生産の不安定さがあるものの円安による輸出への追い風により、今後の伸びが期待されるところである。

野菜の輸入数量

野菜全体の輸入量(平成30年7月)

区分	平成28年		平成29年		平成30年	
	前年比	数量	前年比	数量	前年同月比	数量
生鮮野菜	71,119	102	60,188	85	64,021	106
加工野菜	155,966	101	168,254	108	167,690	100
野菜合計	227,085	101	228,441	101	231,711	101
うち中国産野菜合計	117,553	98	110,388	94	119,131	108
中国産シェア	52		48		51	

主な生鮮野菜の輸入先(平成30年7月)

品目	輸入合計		1位		2位		3位	
	前年同月比	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	21,266	88	中国	20,264	オーストラリア	621	ニュージーランド	293
にんじん	8,917	131	中国	8,377	オーストラリア	455	ニュージーランド	76
ばれいしょ	5,913	104	アメリカ	5,904	中国	9	-	-
ねぎ	5,350	117	中国	5,341	ベトナム	8	-	-
ジャンボピーマン	4,523	104	韓国	4,139	オランダ	373	カナダ	10
ごぼう	4,169	110	中国	4,127	台湾	36	ベトナム	6
キャベツ	2,374	231	中国	2,374	-	-	-	-
にんにく	2,127	114	中国	1,972	スペイン	138	アメリカ	16

同(平成29年7月)

品目	輸入合計		1位		2位		3位	
	前年同月比	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	24,032	中国	20,690	オーストラリア	1,956	ニュージーランド	1,385	
にんじん	6,783	中国	6,569	ニュージーランド	149	オーストラリア	57	
ばれいしょ	5,660	アメリカ	5,644	中国	16	-	-	
ねぎ	4,554	中国	4,554	-	-	-	-	
ジャンボピーマン	4,352	韓国	3,959	オランダ	381	カナダ	12	
ごぼう	3,777	中国	3,766	台湾	11	-	-	
にんにく	1,866	中国	1,746	スペイン	108	アメリカ	11	
かぼちゃ	1,562	韓国	1,059	メキシコ	501	アメリカ	2	

野菜の輸出数量

野菜全体の輸出量(平成30年7月)

区分	平成28年		平成29年		平成30年	
	前年比	数量	前年比	数量	前年同月比	数量
生鮮野菜	925	111	1,002	108	1,060	106
加工野菜	908	132	1,010	111	1,137	113
野菜合計	1,833	120	2,012	110	2,197	109

主な生鮮野菜の輸出先(平成30年7月)

品目	輸出合計		1位		2位		3位	
	前年同月比	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量
ながいも	531	台湾	235	アメリカ	218	シンガポール	59	
キャベツ等	208	台湾	119	香港	72	シンガポール	11	
メロン	79	香港	61	シンガポール	14	マカオ(葡)	2	

同(平成29年7月)

品目	輸出合計		1位		2位		3位	
	前年同月比	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量
ながいも	375	台湾	196	アメリカ	161	シンガポール	17	
キャベツ等	330	台湾	263	香港	49	シンガポール	15	
きのこ(その他、はらたけ属以外)	66	台湾	33	香港	19	タイ	9	

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：財務省「貿易統計」)
※平成29年1月以降、関税法の統計品目番号の変更により、「にんじん及びかぶ」が「にんじん」と「かぶ」に分離・集計されています。
※四捨五入の関係上、合計と各計の数字は一致しないことがあります。

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 斎藤、山田、長島 TEL03-3583-9793、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。
※無断転載禁止 ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。